

群馬・中江田本郷遺跡  
なかえだほんごう



(深谷)

中江田本郷遺跡は、新田町役場の南二・八kmに位置する。北〇・一kmには旧日光例幣使街道であった県道太田・境線が通り、北東一kmには近世宿場町として栄えた木崎の町並みがある。また、南〇・七kmには、鎌倉時代後期に建立され、明治時代に焼失するまで存続していたと伝えられる来迎寺の跡もあり、中近世において栄えた場所であったと言える。

- 1 所在地 群馬県新田郡新田町大字中江田
- 2 調査期間 一九八七年(昭62)一〇月～一九八八年三月
- 3 発掘機関 新田町教育委員会
- 4 調査担当者 小宮俊久
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 八～一九世紀
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

遺跡は、大間々扇状地南方に形成された木崎台地上に位置し、標高は四〇m前後を測る。調査は国道三五四号線バイパス道路建設にともなう発掘調査で、新田町教育委員会が群馬県より委託を受け、約六〇〇〇㎡について実施したものである。

調査の結果、八世紀から一〇世紀にかけての住居跡・掘立柱建物跡・中世の居館の濠跡・中近世の土壇墓・井戸跡等、多数の遺構が検出された。木簡が出土したのは、調査区ほぼ中央の最高所に位置する井戸跡からである。井戸は、直径約一m、深さ約四mの円筒形の素掘りで、木簡は深さ約二・八mから出土している。遺物は総じて少なく、他の遺物としては、木簡よりやや上のレベルからすり鉢の小破片一点、栗の実一点が出土した程度である。

8 木簡の釈文・内容

(1) 「梵字 仏力魔界界即仏一念即於法

界唵々如律令■」

282×72×4 051

呪句「唵々如律令」の記載により、呪符に相当すると思われる。まだ整理作業は行っていないが、井戸中より出土したすり鉢小破片は、堺すり鉢二類に相当し、一九世紀前半に比定されるため、現時点では、木簡の年代もこれに近い時期と考えたい。

(小宮俊久)

佛力魔界即佛念即於法  
 思急々律令辨



# 木簡研究 第九号

卷頭言

田中 稔

一九八六年出土の木簡

概要 平城宮・京跡 興福寺旧境内 藤原京跡 和田麿寺  
 橘寺 曲川遺跡 長岡京跡(1) 長岡京跡(2) 長岡京跡(3) 長  
 岡京跡(4) 平安京右京三条二坊八町 平安京右京五条一坊三  
 町 平安京右京三条二坊八町 平安京右京五条一坊六町 平  
 安京右京八条二坊二町 平安京右京八条二坊十二町 伏見城  
 跡 大坂城跡 安堂遺跡 津田トッパナ遺跡 萱振A遺跡  
 弥布ヶ森遺跡 但馬国府推定地 初田館跡 福田片岡遺跡  
 清洲城下町遺跡(1) 清洲城下町遺跡(2) 居倉遺跡 土橋遺跡  
 駿府城三の丸跡 東京大学構内遺跡 浜野川遺跡 神照寺坊  
 遺跡 浄琳寺遺跡 光相寺遺跡 吉地薬師堂遺跡 胆沢城跡  
 根城跡 生石2遺跡 新青渡遺跡 弘田柵跡 田名遺跡 曾  
 万布遺跡 辻遺跡 富田川河床遺跡 草戸千軒町遺跡 周防  
 国府跡 中島田遺跡 大宰府跡 井相田C遺跡 吉野ヶ里遺跡  
 一九七七年以前出土の木簡(九)  
 平城宮跡(第三二次補足調査)  
 国語の表記と森ノ内遺跡木簡  
 敦煌凌胡際址出土冊書の復原  
 漆紙文書集成  
 正倉院木簡の用途——原秀三郎氏の所説に接して—— 東野治之  
 岸俊男会長の思い出 平野邦雄  
 彙報

頒価 三八〇〇円 下四〇〇円